



みみ

耳よい

いいメール

国立病院機構 相模原病院 広報誌
平成27年5月29日号
発行：国立病院機構 相模原病院
発行責任者：金田 悟郎
住所：相模原市南区桜台18-1
電話：042-742-8311（代表）
F A X：042-742-5314

第65号



高野山 金剛峯寺 蟠龍庭ばんりゅうてい（撮影：富永 泰平）

第65号 目次

- ◆ 「副院長就任にあたって
— 私と相模原病院の縁 —」…………… 2
- ◆ 「統括診療部長就任にあたって」…………… 4
- ◆ 「敷地内全面禁煙となります」…………… 5

連載 近隣協力医療施設の紹介コーナー

大和市 南林間
「田口クリニック」…………… 6



SAGAMIHARA
NATIONAL
HOSPITAL

私たちは患者の皆さまの
人権を尊重し、
十分な説明と同意に基づ
き親切で心のこもった医
療を提供します。

「副院長就任にあたって —私と相模原病院の縁—」



副院長
安達 献

第一の転機：相模原病院赴任

当院の外科医長だった高橋俊毅先生（その後第10代院長）に再会したのは、平成2年12月の北里大学東病院内視鏡室忘年会の席でした。相模原病院に消化管の専門医が欲しいとのリクルート目的で出席されていたのです。高橋先生は当院赴任前に北里大学で外科講師をされており、私が大学5年時の外科臨床実習の教育担当者でした。私が内科研究員として所属していた北里大学消化器内科の西元寺克禮教授は、高橋先生と同じ九州大学の後輩でしかも、西元寺教授は高橋先生の義理の弟という縁戚関係にありました。丁度その年の12月に博士号を取得し研究がひとくぎりついていた事や、ゆくゆくは帯広市（北海道）に帰り実家を継ぐことが宿命と信じていて、大学に残る意志のなかった事から白羽の矢が立ち、私に断る理由も勿論断れる筈もなく平成3年2月1日に北里大学からの初めての内科医員として赴任したのです。当時父から帯広に総合病院を開院するように言われており、すべての内視鏡技術を身につけようと研鑽していましたが、私の赴任から2ヶ月遅れて学生時代からの同期である金田悟郎先生（現院長）がドイツ留学から帰国し、当院外科に赴任した事も大きな縁でした。大学で培った技術に加えて、彼が留学で習得した胆・膵領域の先進的技術の手ほどきを受けて飛躍的に内視鏡のテクニックが上達した事や、人員が充分でないなかでお互い助け合って臨床に邁進し、充実した毎日であったことが懐かしく思い出されます。

第二の転機：王立アデレード病院留学

当院に3～4年勤務して御礼奉公を果たした後は帯広へ帰ろうと赴任した私でしたが、当院のリウマチ患者さんの当時の死因の第2位が、NSAIDs（消炎鎮痛剤）に起因する消化管穿孔や消化管出血である事を知り、「NSAIDsを持続投与されたリウマチ患者さんに起こった胃潰瘍の難治要因の検討」といった臨床研究を始めました。ピロリ菌との関連性の有無や、手術標本を用いた病理組織学的検討、胃の排出能、胃内粘液の組成変動をまとめた所でそろそろ帯広に帰ろうかと父に打診したところ「留学しろ！」とのこと。家を継ぐのに今さら留学する必要はあるのかとわだかまりつつこれも社会勉強だと自分を納得させ、どうせ留学するなら人生で一度きり臨床を離れ、消化管の運動生理を勉強しようと考えて、南オーストラリア州の州都にある王立アデレード病院消化器科（ジョン・デント教授）の小腸の運動機能研究部門に留学することにしました。退職の意向を内科医長だった安部明朗先生を通して宮本昭正院長（第8代）にお伝えしたところ国費留学のお誘いを頂きました。一年間当院を休職し給料を貰いながら留学出来るが、帰国後3年間当院に勤めてその後は定年退官される安部先生の後任として医長にならないかというものだったかと記憶していません。留学費用を負担してもらえぬ事の嬉しさよりもアレルギー領域で世界的にご高名な方が、出身大学も専門分野も全く異なる一介の医員に対してお声かけしてくださった事に感激し、赴任後の4年間で徐々に養われていた相模原病院への愛着が、一気に開花したことを昨日のことのように覚えています。腎臓の病のために、博士号取得後の留学を断念せざるを得なかった父は思いのほか喜んでくれて、自分の跡を継ぐ必要も帯広に戻る必要もないと言ってくれたのです。

第三の転機：平成16年の独立行政法人化

留学から帰国後の平成11年4月に工藤洋院長（第9代）に医長へ昇任いただき、その後の高橋院長の時代は急性期医療も担える病院へと変貌を遂げましたが、第三の転機が国立病院の独立行政法人化とともに訪れました。独法後、独立採算性になり国からの援助がなくなったことから院長の人事権、裁量権が大きくなり、年功序列だった人事において若手の登用が可能になった点が背景にあります。越智隆弘院長（第11代）から院長室へ金田先生と共に呼ばれ、「他にやる者がいないから、二人で協力して病棟新築と病院経営をやれ！」との命を受け、平成18年4月に私は外来部長、金田先生は病棟部長に就任しました。藤村祥一院長（第12代）のもとで、平成20年8月に新入院病棟が開棟し、その後平成25年4月より統括診療部長を務めました。

副院長就任にあたって

赴任から丁度25年目の平成27年2月1日付で副院長を拝命しました。平成9年より黒字経営を続ける臨床部門と、国内では有数の業績を誇る臨床研究センターの両輪が未来永劫手をたずさえて進んでいって欲しいという秋山一男前院長（第13代）のご遺志を継いで、両部門の

架け橋になることができると考えています。

25年前はほんの2kmしか離れていない病院に勤めていながら、当院がアレルギー・リウマチ分野で有名なことすら知らなかった私が、今では誰よりも相模原病院を愛していると自負しておりますが、今後も患者さんに信頼され支持され続けられる病院であるためには、職員達が相模原病院に愛着を持ち、当院に勤めている事に誇りや幸せを感じてもらえなければなりません。職員各位が前向きに生き生きと働ける魅力ある病院をいかにしてつくるか！ 職員自らが考える組織をいかにしてつくるか！ 職員達が数字で強制されないマネジメント力をいかにしてつけるか！ 以上の課題を達成するために一歩でも前進すべく金田院長と共に最善を尽くしますので、患者さんを含め関係各位の皆様におかれましては引き続きのご支援、ご協力を賜りたく宜しくお願い申し上げます。



宮本 昭正 院長 [第8代]



工藤 洋 院長 [第9代]



高橋 俊毅 院長 [第10代]



越智 隆弘 院長 [第11代]



藤村 祥一 院長 [第12代]



秋山 一男 院長 [第13代]



ジョン・デント教授

「統括診療部長就任にあたって」

統括診療部長
森 俊仁

このたび、平成27年2月1日付けで、統括診療部長に就任しました森俊仁と申します。就任にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。私は平成11年5月に、整形外科医長として当院に赴任して、今年で17年目になります。専門である整形外科、リウマチ・関節外科を中心として臨床医療を行ってきました。この16年間に医療を取り巻く環境が激変し、相模原病院も大きく進化を遂げたことを実感しております。

当院は平成11年より政策医療の免疫疾患（リウマチ・アレルギー疾患）分野の高度専門医療施設として指定され、リウマチ・アレルギー疾患の診療、臨床研究、教育研修及び情報発信を推進してまいりました。また、相模原市の中核病院として、他の分野についても医療の質の充実に努めてまいりました。近年、医療の高度専門化が進んだことを受けて、当院でも、内科は消化器内科、循環器内科、リウマチ科、アレルギー科、呼吸器内科、神経内科など、外科は消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科など各科の細分化をしました。整形外科でも、リウマチ・関節外科、脊椎外科、手外科など各々の分野において専門医による質の高い医療を実現しております。当院は、現在25診療科を標榜し、病床数458床の総合病院として幅広く診療を行っております。まだ設けていない科もあり、患者の皆さんにご迷惑をお掛けしておりますが、近隣の医療施設をご紹介することで対応とさせていただきます。

相模原市の皆さんをはじめ、広く皆さんに安心してご利用いただくため、当院は急性期医療実施体制を整えており、他の病院や診療所との連携を強化しながら、相模原市地域医療支援病院としての役割を果たしております。現在は400名を越える地域の医療施設の先生方に、当院の連携協力医師として登録していただいております。地域の先生方から精密検査や入院治療が必要な重症患者さんの紹介を受け、検査、診断や入院治療を行います。一方、当院での治療を終了され、病状が安定している患者さんは、また地元の先生に紹介させていただいております。是非とも安心して当院を含めた地域医療をご利用下さい。

相模原市の救急医療体制は、メディカルセンター急病診療所、二次救急病院、三次救急病院に区分されており、当院は二次救急病院として、救急時に適切な医療を行えるよう努めています。診療所や病院が連携して救急対応をしておりますので、皆さんには、日頃から地元のかかりつけ医をお持ちいただき、急病時にも迅速な対応が可能となるようご協力をお願いしたいと存じます。

金田病院長の下、病院職員一同は、今後も患者の皆さんによりよき医療を提供できるよう、そして皆さんに信頼される病院となるよう努力してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



「敷地内全面禁煙となります」

管理課長 櫛田 裕之

当院では、神奈川県において施行されている「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」を踏まえ、平成27年6月1日より終日敷地内（病院内、他建物、駐車場を含む敷地内全域）全面禁煙とさせていただきます。

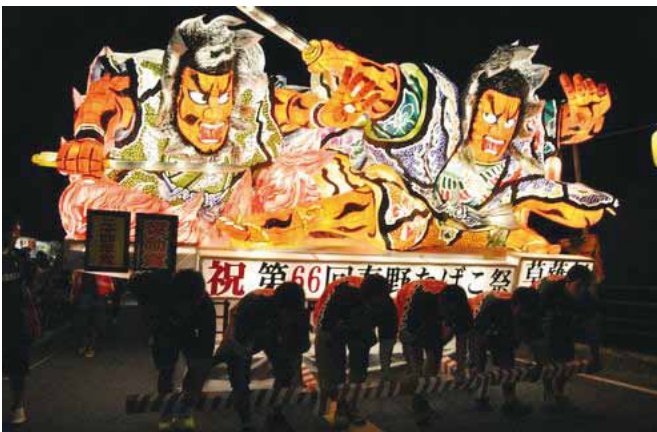
同条例では、病院は、特に受動喫煙による健康への悪影響を排除する必要がある施設（第1種施設）とされており、建物内禁煙が義務となっていることから、この度、屋外も含めた敷地内を禁煙とすることといたしました。

また、平成25年度に県が新たに策定した「神奈川県がん対策推進計画」において、たばこ対策をはじめ、がん予防に向けた生活習慣の改善や発がんに関わるウイルス等の感染に対する予

防に取り組むこととされており、たばこをやめたい人が卒煙することにより、平成29年度までに、成人喫煙率を男性25%、女性6%とすることなどが目標とされています。

当院においても、がん予防やがん医療などがんに対する正しい知識を持つとともに、住み慣れた地域で、安心してがん医療や支援を受けられるよう、がん対策を総合的に推進するための計画に取り組むこととしております。

皆様のご理解とご協力をお願い致します。



さて、話しが少し脱線してしまいましたが、私の地元、神奈川県秦野市は、毎年9月第4土・日曜日に「秦野たばこ祭」を開催しており、昨年の開催で67回を迎えております。

意外と知られておりませんが、秦野は、かつて日本三大銘葉と讃えられるたばこの産地でした。昭和59年に、300年余続いた秦野のたばこ耕作は幕を閉じましたが、秦野の歴史と伝統を守り、後世に伝えていくという視点から、たばこ祭は内容もより楽しく、より参加しやすいように考慮し継続して実施されております。また、秦野は、丹沢の山々に囲まれ、登山やハイキングで自然が満喫（喫煙対策になるかも）できますので、秦野に是非、足を運んでみては如何でしょうか。

※写真提供：秦野市観光課

連載

近隣協力医療施設の紹介コーナー



大和市 南林間
「田口クリニック」

院長 ひろき
田口 裕基 先生

相模原病院は、私の父が長年泌尿器科で勤務していたご縁があります。私自身も現在の泌尿器科平井先生の下で研鑽を積まさせていただきました。その後、大和市立病院泌尿器科での勤務を経て、平成23年4月から田口クリニックを開院させていただきました。場所は、大和市南林間ですが座間市のひばりが丘や小松原の市境と近いので、座間市の方で相模原病院に通院している方にも便利な位置にあります。

泌尿器科はお子様の夜尿症から、高齢な方の過活動膀胱や前立腺肥大症といった病気やEDなどと幅広く扱っており、特に近年は高齢化に伴って前立腺癌など悪性腫瘍疾患が増えています。相模原病院においても悪性腫瘍の患者さんが増えているとお聞きしております。命にかかわるような悪性腫瘍などの病気は相模原病院

のような大病院で、症状が安定している病気や生活習慣病は地域の診療所であるというのが国の方針です。例えば、頻尿は泌尿器科外来ではありませんが、大病院の泌尿器科外来では忙しいため数か月分の薬を出しておしまいなんてこともあります。診療所で丁寧に診療するとかなり改善することもあります。田口クリニックは、相模原病院や大和市立病院との連携を親密にし、地域の患者さんが適切に医療を受けられるように努力しております。田口クリニックは、泌尿器科の専門性を生かしながら地域の診療所としての本分を果たしつつ、患者さんのより良い健康生活の実現ができるように診療してまいります。どうぞよろしくお願い致します。



【田口クリニック】

診療科：泌尿器科、内科

休診日：火・土曜日午後、日曜祝祭日

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:00	○	熊谷	○	○	○	○	—
15:00~18:30	○	—	○	○	○	—	—

※火曜日は、熊谷治巳医師の診察日です。

電話：046-275-3830

ホームページ：http://taguchiclinic.p1.bindsite.jp/

住所：〒242-0006

神奈川県大和市南林間7-25-6

